

FM 西東京職場体験のアシスタントレポート

多摩大学中村そのこゼミナール3年
前田千夏

2015年の9月中旬私はコミュニティラジオ局 FM 西東京が行っている中学生職場体験のアシスタントをした。私自身が同社にインターンシップに行き繋がりが生まれ、その関係で今回アシスタントの依頼を受けた。

今回、職業体験をするのは地元の3校・合計9人の中学生で、自ら希望を出して FM 西東京を選んだようだ。初めて彼らを見て感じたことは期待と不安の感情が顔に出ていて、私自身もインターン1日目は彼らと同じ表情をしていたのだろうと少し自分の成長を実感した。そんな若さと元気いっぱいな彼らに私がもらったものを返してあげたいと思い、今度は逆の立場で良い職業体験にしようと強く思った。

今回の中学生職場体験は3日間の予定でその期間のスケジュール作成も私に任せていただいたので、どうすればよりよく学べる体験になるかたくさん考えた。

1日目は印象に残る自己紹介と発声をやった。2日目に行う生放送出演のラジオ用の話し方の練習として、思いっきり大声で自己紹介をし、続いて正しい発音で自信を持って話す方法をプロのアナウンサーの方に指導していただいた。普段の話し方とは少し違う練習に苦戦し、思った以上にハードな内容になっていたが、中学生たちは負けるものかと乗り越えてくれて次の日の生放送も心配ないと感じた。

2日目はついに生放送デビューだ。番組は午前中の枠の Pop'n タワー内のゲストコーナーでパーソナリティとの対話形式で進行した。昨日の今日でのデビューなので流石に元気だった彼らも緊張でガチガチに固まっていた。私たちもインターンで同じように初日生放送に放り込まれたのでアドバイスしようとしたものの、なにも分からない1日目に放り込まれたため緊張する暇さえなかったことを思い出し、「なんとかなるよ」としか言なかった。そんな時に社員さんは直接的なアドバイスではなく雑談で気をそらし、中学生たちの緊張をほぐして経験の差を感じた。生放送自体はつつがなく行われ中学生たちも緊張しつつも特色を出せていたと思ったが、本人たちに話を聞いてみると「全然話せなかった」「何も覚えてない」などと悔しがっていた。

ここで客観的に改めて生放送を振り返ると、やはりパーソナリティの方の話の振り方が卓越していた。初めて会う人、それも緊張から普通に話すこともできないような人からスルスル情報を自然に引き出すスキル、答えやすい質問の投げ方などプロの力を感じた。そしてこの日の終わりにはこの生放送を録音した CD をお土産として配布した。配った際には緊張した自分の声を聞きたくなかったのか悲鳴の嵐だったが、帰宅間際に「帰って一人で聴きます」と喜びの声をもらえた。

職場体験最終日の3日目はFM西東京の裏方の仕事を体験した。1・2日目の表舞台のしゃべる仕事に対し、最終日はコミュニティーラジオ局の役割と今後の活動をどうすれば良いかディスカッション形式で意見を出し合った。現状については社員の方にじきじきにご説明いただいてそれを踏まえた上で中学生のやわらかい頭で問題提起や打開案を出してもらった。面白い意見は、実現度合いをいったん置いて掘り下げそのまま社員の方にプレゼンテーションした。社員の方は、中学生から出た番組コーナーの案が面白いから今度の企画会議に出すとおっしゃっていて充実したディスカッションになったと思う。

この3日間を振り返ると、普段関わる機会のない中学生たちとのふれあいは得がたい経験で貴重なものであった。中学生たちは私が忘れかけていたフレッシュさやバイタリティにあふれ目をキラキラさせながら今回の職場体験に臨んでいた。そんな姿からは逆に学ぶ事も多く短いながら中身のある3日間だったと思う。中学生たちもそう思ってくれていると嬉しい。



※インターン最終日の記念撮影